



Title	南疆遺跡參觀報告
Author(s)	荒川, 正晴
Citation	内陸アジア史研究. 1992, 7-8, p. 10-20
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/88450
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

南疆遺跡参観報告

本年の7月15日(月)から8月26日(月)にかけて、文部省科研費による国際学術共同研究(代表・早稲田大学、長澤和俊、研究題目・「新疆維吾爾自治区における東西交通路の路線と史跡の研究」)の活動の一環として、新疆維吾爾自治区の天山南部地域(南疆)の遺跡を参観訪問した。予定では、上記テーマに基づく調査が、日本と中国(中国科学院新疆生物土壤沙漠研究所と新疆文物考古研究所)との共同調査の形で三年間継続して行われるが、本年度は来年度以降の調査のためのGeneral Surveyとしての性格を持つため、特定の遺跡に限定した重点的な調査は行わず、広く南疆に点在する各遺跡を参観し、併せて現地研究者との学術交流を通して、新疆の各遺跡(特に古城址や古墳群および石窟遺跡など)に関する現時点での最新の情報を収集することに努めた。まず、以下に今回参加した研究メンバーと参観日程を掲出しておく。

【参加研究者】

- (日本側) ① 長澤和俊(早稲田大学文学部教授)
② 桜井清彦(同上)
③ 大橋一章(同上)
④ 荒川正晴(早稲田大学文学部非常勤講師)
⑤ 小沢正人(早稲田大学大学院文学研究科、北京大学留学)
- (中国側) ① 夏訓誠(中国科学院新疆分院・生物土壤沙漠研究所所長)
② 王炳華(新疆社会科学院・新疆文物考古研究所所長)
③ 閻国荣(中国科学院新疆分院・生物土壤沙漠研究所助理研究員)
④ 劉文鎖(新疆社会科学院・新疆文物考古研究所研修員)

【参観日程】

7月16日～18日	烏魯木齊 (Urumchi)	8月7日～11日	和田 (Khotan)
7月18日～22日	吐魯番 (Turfan)	8月11日～12日	民豐 (Niya)
7月22日～26日	烏魯木齊 (Urumchi)	8月12日～13日	且末 (Cherchen)
7月26日～29日	庫爾勒 (Korla)	8月13日～14日	若羌 (Charkhlik)
7月29日～8月1日	庫車 (Kucha)	8月14日～15日	庫爾勒 (Korla)

8月1日～3日	阿克蘇 (Aksu)	8月15日～22日	烏魯木齊 (Urumchi)
8月3日～7日	喀什 (Kashgar)		

現地では、遺跡参観のほか、以下に掲げるとおり、研究所や各地区の文管所を始め各種の行政・研究機関を訪問し、研究者を始め多くの人々と交流をもつことができた。

【新疆維吾爾自治区文化庁】（烏魯木齊市勝利路193号）

- 1 解 耀華（副庁長・新疆对外文化交流協会理事）
- 2 韓 翔（文物処処長）
- 3 王 経奎（文物処）
- 4 盛 春寿（文物処）

【中国科学院新疆生物土壤沙漠研究所】（烏魯木齊北京南路40号）

- 1 夏 訓誠（所長）
- 2 倪 頻融（科研計画与国際合作処処長）
- 3 宋 郁東（科研計画与国際合作処副教授）
- 4 閻 国栄（助理研究員）
- 5 朱 衛東（科研計画与国際合作処助理工程師）
- 6 張 鶴年（新疆維吾爾自治区生物土壤研究站・策勒沙漠研究站、所長）

【新疆文物考古研究所】（烏魯木齊北京南路16号）

- 1 王 炳華（所長、研究員）
- 2 王 明哲（副所長、研究員）
- 3 穆 舜英
- 4 張 玉忠（考古研究部主任、助理研究員）
- 5 羊 毅勇（研究員）
- 6 劉 文鎖（研修員）
- 7 劉 学堂

【新疆維吾爾自治区博物館】（烏魯木齊西北路）

- 1 吳 震（研究員）
- 2 賈 応逸（研究員）
- 3 王 欣

【吐魯番地区文物保管所・吐魯番地区博物館】（吐魯番市高昌路）

- 1 岑 雲飛（新疆吐魯番地区文物保管所、所長・新疆吐魯番地区博物館館長）
- 2 米 世忠（新疆吐魯番地区文物保管所）

【巴州文物陳列館】（庫爾勒市）

- 1 何 德修（館長）
- 2 譚 大海

【庫車県文物保管所・庫車県文化処】

- 1 謝 静波（庫車県文物保管所）
- 2 鄧 学鋒（庫車県文化処）
- 3 買買提・那期爾（庫車県文物保管所）

【阿克蘇地区文物管理所】（阿克蘇市北大街17号）

- 1 曾 安軍（所長）

【喀什地区文化処・喀什地区文管所】

- 1 買買提・阿不都拉（喀什地区文化処群文科、科長）
- 2 阿力甫（喀什地区文管所）
- 3 馬 迎勝（喀什地区文化処、処長）

【和田地区人民政府・和田地区文物管理所】

- 1 阿不都拉・艾孜（和田地区人民政府、副專員）
- 2 阿不都・哈地爾（和田地区文物管理所、所長）

【巴州且末県文体局文物保護管理所】

- 1 阿布都拉・阿布都熱西提
- 2 吐爾地克熱木

この他、和静県の察吾乎溝口古墓群（後掲遺跡表の（C）・③）では、中国社会科学院考古研究所の韓康信氏にお会いすることができた。同氏は、広く新疆地域に点在する古墓群出土の人骨調査を行われており、その成果は、「新疆古代居民的種族人類学研究和維吾爾族的體質特点」（『西域研究』1991年第2期）などに公表されている。同古墓群出土の人骨に関する本格的な調査は、これからとのことであるが、天山南麓のカラシャール近郊に生活していた民族系統について、人骨分析からどのような結論がだされるのか興味もたれる。また烏拉泊古城と烏拉泊古墓葬の参観に際しては、同時期、偶然にも烏魯木齊の新疆文物考古研究所に滞在されていた中国文物研究所（北京王四大街29号）の林梅村氏が同行された。氏の新疆来訪の目的は、新出のトゥムシュク文書の調査のためとのことであるが、同文書がどこでどれほど発見されたのかは詳かではない。また、吐魯番では、本会報の第46号（6頁）で紹介した中国吐魯番学学会の副会長兼秘書長をされている張文華氏ともお会いすることができ、同氏よりその活動の一端をうかがった。

ところで、今回訪問した遺跡は、以下に掲げるとく、広く南疆に散在する古城址や古墳群および石窟遺跡などで、その数も40近くにのぼる。そこで、各遺跡に関する基礎的な情報を一括して提供すべく、ソニーのG・P・S（Global Positioning System）で測定した遺跡の経・緯度のデータを掲載する（※印で、おおよその測定地点を注記）。なおこれまで遺跡の位置に関しては、既にスタインや黄文弼などが、地図上にプロットしている（Serindia, vol. V Maps, London, 1921; Innermost Asia, vol. IV Maps, London, 1930、『塔里木盆地考古記』科学出版社、1958年、『吐魯番考古記』中国科学院出版、1954年など）が、今回の測定データとの差異は、決して小さくない。ただし、最近では、中国で各地区ごとに普查隊が包括的な遺跡調査を敢行しており、その調査結果も続々と『新疆文物』誌上に発表され(1)、経・緯度に関してもより正確なデータが報告されている。今回のG・P・Sの利用により、さらに精度を増した経・緯度のデータを提供することが可能となったと思われるが、本参観の測定は、一回ないしは二回の測定にとどまるものである。しかもほぼ同地点・同時刻でのわずか二回の測定でも、秒単位で多少の誤差を生じており、今後の適正な条件下での精密な測定が望まれる。

【参観遺址】

(A) 烏魯木齊 (Urumchi)

- ① 烏拉泊古城 (烏魯木齊市の市街南約10km
烏拉泊水庫の西南約2km)

※北壁中央より南に延びる東子城西壁のほぼ
中央部で測定。

N 43° 38' 30"
E 87° 35' 14"

- ② 烏拉泊古墓葬 (同上、烏拉泊水庫の南斜面)
※烏拉泊水庫の南斜面に46基の墳墓が点在す
るが、測定地点は確認できず。

N 43° 38' 40"
E 87° 36' 45"

- ③ 柴窩堡湖古墓群 (烏魯木齊市東南50km)
※柴窩堡湖古墓群 (の最大墳墓) で測定 (2)。

N 43° 30' 33"
E 87° 57' 33"

- ④ 塩湖烽燧遺址 (塩湖車站西北約1km)
※烽燧西側面地点で測定。

N 43° 25' 25"
E 88° 05' 00"

(B) 吐魯番地域 (Turfan)

- ① 雅爾湖千仏洞
(吐魯番市の西約10km、交河故城西南河谷南岸)
※第4窟前で測定。

N 42° 57' 28"
E 89° 02' 44"

- ② 雅爾湖古墓群 (吐魯番市西約10km、交河溝西土崖上)

- ③ 魯克沁墓葬群 (一棵桑樹、布爾土居結木古墓群。鄯善県魯克沁鎮吐
格曼博依村北、魯克沁鎮東北約4km)

※ 東西1500m、南北600m、面積約0.9km²に墳墓
が散在し、これまで78基を発掘。そのうち
10数基の墳墓は一ヶ所に集中しており、そ
れらは、「甲」字形の土梁で囲まれる。測定は、その墳墓集中地点。

N 42° 45' 48"
E 89° 46' 49"

④ 魯克沁墓葬群（三个橋古墳群、鄯善県魯克沁鎮三个橋村、魯克沁鎮東南約3km）

※青銅時代～隋唐時代にわたる広大な古墓群
（二地点に分布か）(3) で、測定地点は、三
个橋村の三坎克日墓群遺址（約2万km²）か？

N 42° 43' 38"

E 89° 47' 55"

⑤ ア斯塔那古墳群（吐魯番市東南約40km）

※TAM216号地点で測定

N 42° 52' 54"

E 89° 31' 40"

⑥ 柏孜克里克千仏洞（吐魯番市東北約50km）

※現第31窟前テラスで測定。

N 42° 57' 18"

E 89° 32' 19"

⑦ 勝金口千仏洞（吐魯番市東北約40km）

※オルデンプルクのхр а м（寺院）No.10
（現第2号窟）前で測定(4)。

N 42° 55' 02"

E 89° 33' 52"

⑧ 吐峪溝千仏洞（鄯善県県城西南約40km）

⑨ 高昌故城（吐魯番市東約50km）

※高昌城東壁馬面の地点で測定
（版築層3.5～5cm前後）

N 42° 51' 02"

E 89° 32' 10"

⑩ 交河故城（吐魯番市西約10km）

※安西都護府司の跡と言われる地点で測定。

N 42° 56' 59"

E 89° 03' 56"

⑪ 魯克沁古城（鄯善県魯克沁鎮）

※東西約1000m余り・南北約400m、周囲約3km
と報告される。古城西南角で測定。

N 42° 44' 35"

E 89° 45' 06"

- ⑫ 台藏塔 (吐魯番市・阿斯塔那村<三堡村>)
※底辺37×37m、残高約20m余り。同塔西側面
地点で測定。

N 42° 52' 08"
E 89° 31' 05"

(C) 庫爾勒市 (Korla)

- ① 博格達沁城址 (焉耆回族自治州州城西南約12km)
四十里城子古城 (喀拉馬克沁)
※周囲約3km。城址内部中央地点で測定 (5)。

N 41° 57' 17"
E 86° 30' 35"

- ② 明屋 (錫克沁) 遺址 (焉耆回族自治州州城西南約30km)

※東西190m、南北350mの領域に、溝南区と溝北
区に二分される (6) が、測定地点は、溝南区。

N 41° 56' 09"
E 86° 20' 30"

- ③ 和靜県察吾乎溝口古墓群 (和靜県西約40km)

※第Ⅲ号墓 (?) 地点か。

N 42° 25' 48"
E 86° 07' 57"

- ④ 鉄門関 (庫爾勒市の市街の北方約27km)
※孔雀河東岸山上地点で測定 (7)。山高50m。

N 41° 49' 31"
E 86° 11' 32"

- ⑤ 阿克墩遺址 (輪台県野雲溝村東約16km)

※ (8)

N 41° 59' 36"
E 85° 11' 56"

- ⑥ 脱克塔木遺址

※ (9)

N 41° 46' 16"
E 83° 26' 20"

(D) 庫車県 (Kucha)

- ① 克孜爾千仏洞 (拜城県克孜爾鎮東南7km)

※谷西窟群前で測定。

N 41° 46' 53"
E 82° 30' 07"

② 蘇巴什古城 (庫車県県城北約23km)

※銅廠河の東西に分布。測定地点は、河西遺址 (南北長さ685m、東西170m) の78KZFM 1で測定 (10)。

N 41° 51' 23"
E 83° 02' 39"

③ 克孜爾尕哈千仏洞 (庫車県県城西約10km)

克子喀拉罕石窟 (閻文儒氏)

※第3窟前地点で測定 (11)。

N 41° 47' 54"
E 82° 54' 09"

④ 克孜爾尕哈土塔址 (庫車県県城西約10km)

N 41° 47' 32"
E 82° 53' 55"

⑤ 夏克土爾・玉其土爾遺址 (庫車～新和県間の渭干<ムザルト>河畔)

※夏克土爾遺址 (Douldour aqour) (12)
<クムトラ石窟溝口区南端対岸>で測定。

N 41° 41' 11"
E 82° 41' 47"

⑥ 龜茲故城 (皮朗故城)

※内城西壁地点で測定。

N 41° 44' 07"
E 82° 56' 36"

(E) 阿克蘇 (Aksu)

① 亜衣德梯木

※ (13)

N 40° 25' 59"
E 79° 23' 06"

② 都埃梯木

※ (14)

N 40° 26' 10"
E 79° 26' 04"

③ 温宿故城

N 41° 16' 42"
E 80° 14' 37"

(F) 喀什市、疏附県 (Kashgar)

① 三仙洞 (喀什市市街北18km)

N 39° 35' 30"
E 75° 57' 22"

② 康奥依古城 (疏附県県城東北約20km)
(哈洛依古城)

N 39° 34' 11"
E 76° 14' 43"

③ 莫尔仏塔

N 39° 36' 58"
E 76° 15' 12"

(G) 和田市 (Khotan)

① 約特干遺址 (和田市西方約10km)

N 37° 06' 53"
E 79° 49' 28"

② 買力克阿瓦提遺址 (和田市南約25km、玉璫喀什河西岸)

※遺址範圍南北約1400m余り、東西兩端は河岸
に限られ、北の幅は450m前後、南の幅は約
745m。計測地点は南端中央よりか？。

N 36° 57' 06"
E 79° 53' 50"

(H) 民豊県 (Niya) ・于田県 (keriya)

(I) 且末県 (Cherchen)

(J) 若羌県 (Charkhlik)

【注】

- (1) 既に『新疆文物』において、以下に掲げる普查隊による報告が公表されている。

自治区文物普查办公室・吐鲁番地区文物普查队「吐鲁番地区普查资料彙編」(1988-3)、新疆维吾尔自治区文物普查办公室・昌吉回族自治州文物普查队「昌吉回族自治州文物普查资料」(1989-3)、新疆维吾尔自治区文物普查办公室・博尔塔拉蒙古自治州文物普查队「博尔塔拉蒙古自治州文物普查资料」(1990-1)、新疆维吾尔自治区文物普查办公室・伊犁地区文物普查队「伊犁地区文物普查报告」(1990-2)、自治区文物普查办公室・乌鲁木齐市文物普查队「乌鲁木齐市文物普查队资料」(1991-1)。ただし、普查隊の掲げる遺址の経・緯度との異同については省略する。

- (2) 柴窩堡湖沿岸には、西南岸と東岸に細石器遺址も広がるが、今回参観したのは柴窩堡湖東約1.7kmにある柴窩堡湖古墓群である。長さ約1.83km、幅約0.48kmの範囲内に39の墳墓が南北方向に排列される。測定地点は、直径50m・高さ4mの最大墳墓。
- (3) 上掲「吐鲁番地区普查资料彙編」付載の「吐鲁番地区文物分布目錄」によれば、三个橋村付近の古墓群遺址は、戦国～漢代の三坎克日墓群と唐代の三个橋古墓群に分かれる。
- (4) Ольденбург, С. Ф., Русская Туркестанская Экспедиция 1909-1910 года., Санктпетербург. 1914. pp.37-44, XXXVII~XL I. 中国壁画全集編輯委員会編『中国壁画全集 新疆6吐鲁番』遼寧美術出版社・新疆人民出版社、1990年、p.160の勝金口石窟参照。
- (5) 韓翔氏の公表された「焉耆国都、焉耆都督府治所与焉耆鎮城—博格達沁古城調査」(『文物』1982-4, pp.8-12)に付載される平面図の3の地点で測定。
- (6) 黄文弼『新疆考古發掘報告(1957-1958)』(文物出版社、1983年) pp.36-46参照。
- (7) 黄文弼、前掲書、p.29には、鉄門関の遺址に二ヶ所あり、一つは孔雀河西岸平地(庫爾勒哈溝供銷合作社打石組の傍ら)にあり、もう一つが同河東岸山上(打石組南約2.5km)に存在すると指摘される。
- (8) 黄文弼『塔里木盆地考古記』(科学出版社、1958年) p.9、付図4輪臺。自治区博物館文物隊・輪台县文教局「輪台县文物調査」(『新疆文物』1991-2) pp.9-11。唐代の城堡と認められ、張平氏は、これを榆林守捉城址に比定される。「有關唐安西烏臈州等地望考」(『新疆社会科学』1990-2) pp.120-127。
- (9) 黄文弼、前掲書、付図5庫車では、徒格塘木と表記。自治区博物館文物隊・輪台县文教局、前掲論文、pp.12-13。
- (10) 銅廠河西岸の仏教建築遺址群の西端に墓葬を伴う仏塔があり、現在78KZFM1に編號されている。新疆博物館・庫車県文管所「庫車昭估釐西大寺塔葬墓清理簡報」(『新疆文物』1987-1) p.12の図二78KZFM1の位置図参照。また黄文弼、『新疆考古

発掘報告（1957－1958）』pp.71-93。黄文弼『塔里木盆地考古記』pp.28-30。

- (11) 賈応逸「初論克孜爾尕哈石窟中的吐蕃洞」（『新疆文物』1991-2）pp.91-96。
- (12) 渭干河畔の夏克土爾(シャハトル)・玉其土爾(ウシトル)＜黄文弼の色乃当旧城（『塔里木盆地考古記』p.17）。なお付図5庫車には于斯托拉の名も見える＞両遺址については、1958年に調査された王炳華氏が、夏克土爾をベリオの発掘した「都勒杜爾阿胡爾Douldour aqour」であったと認められている（「唐安西柘厥関故址并有関問題研究」『西北史地』1987年第3期、p.15）。さらに氏は、両遺址を唐の柘厥関（＝柘厥寺）に比定されている（同上、p.19）。この他、韓翔・陳世良「龜茲佛寺之研究」『新疆文物』1989年第2期、p.80。梁志祥「庫車県古遺址簡介」『新疆大学学报』1985年第1期、pp.53-56も参照。
- (13) 1983年に文化部文物局・新疆博物館によって調査されている。柳晋文「巴楚－柯坪古絲道調査 兼述“済濁館”，“謁者館”之地望」『新疆文物』1985年第1期、pp.17-19。また王炳華氏は、この遺址を唐の済濁館に比定されている。「“絲路”考古新収獲」『新疆文物』1991年第2期、pp.21-41。
- (14) この遺址も、1983年に文化部文物局・新疆博物館によって調査されている。王炳華氏は、前掲論文、pp.21-41のなかで、これを唐の和平鋪に比定される。ただし、柳晋文氏は、同遺址を謁者館に比定する。前掲論文、pp.17-19。

（荒川正晴）